

10. 1. 吉備国際大学 竹林 崇 先生との合同研究会

日時：平成 29 年 3 月 11 日（土曜日）

会場：畿央大学 P 棟 302 教室

<研究紹介>

- ・ 竹林 崇（吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業療法学科）
「脳卒中後上肢に対する課題指向型アプローチに関する研究」
- ・ 竹内 健太（伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション科）
「半側空間無視に関する研究」
- ・ 大住 倫弘（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）
「神経障害性疼痛患者の運動特性」
- ・ 石垣 智也（畿央大学大学院健康科学研究科）
「二者間身体接触を介した立位姿勢動揺における身体同調の社会的特性」
- ・ 藤井 慎太郎（畿央大学大学院健康科学研究科）
「半側空間無視における反応時の分布特性－注意障害と症状関連とその回復特性－」
- ・ 高村 優作（畿央大学大学院健康科学研究科）
「能動的注意と受動的注意からみた半側空間無視の病態特性」

吉備国際大学の竹林崇先生と、その共同研究者である伊丹恒生脳神経外科病院の竹内健太先生（いずれも作業療法士）にお越しいただき、合同研究会を開催した。なお、本研究会では在学中の大学院生以外にも、本学の修士課程や博士課程の修了生が多く参加した。



竹林先生からは、CI 療法（脳卒中後片麻痺上肢の集中訓練：Constraint induced movement therapy）と Transfer package（改善した上肢機能を生活場面の使用に汎化させる行動療法）との併用効果や、その改善に関する神経メカニズム、運動療法にロボットを用いることの有用性、そして、経頭蓋直流電気刺激と末梢電気刺激の併用が CI 療法の効果に与える影響など、脳卒中患者を対象とした様々な臨床研究の成果を紹介して頂いた。また、竹内先生からは、半側空間無視患者の評価指標に対する臨床課題を検証するために取り組んでおられる研究成果を紹介して頂いた。



畿央大学ニューロリハビリテーションセンターからは、慢性疼痛患者の運動特性について大住倫弘助教から、姿勢制御の社会的特性に関して大学院生の石垣智也から、同じく大学院生の高村優作と藤井慎太郎から半側空間無視の病態特性に関する研究紹介が行われた。



タイトなスケジュールによる研究会の開催であったものの、課程修了生を含め、双方より非常に活発な意見交換が行われた。今後もこのような対外的な研究交流を通じて、お互いの研究精度を高めつつ研究領域を広げていき、リハビリテーションの対象者に貢献できる研究を推し進めていきたいと考えている。